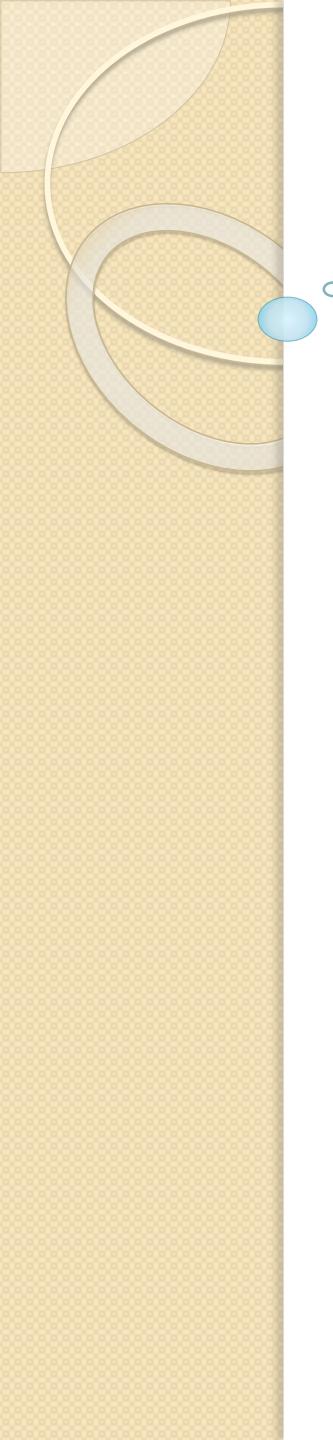




イノベーション

～これからの時代に応える市役所に～

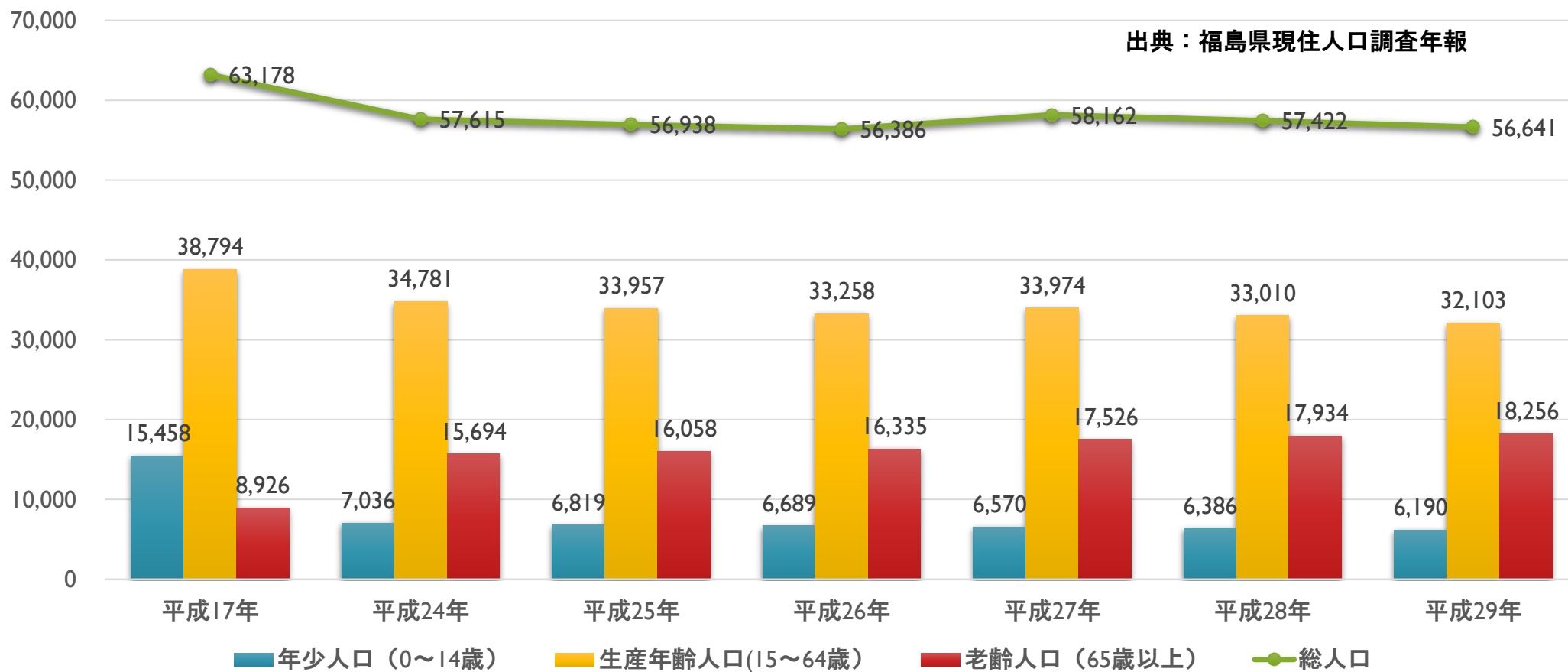
2019政策形成研修Cグループ



提案の背景

二本松市の人口について

二本松市人口推移（年齢区分別）



人口減少から予想すること

消費活動の減少

生産活動の減少・経済規模の縮小

税収の減少

人口減少から予想すること

自治体サービスの質が維持できない



サービスの量や範囲（地域）の縮小



生活に支障が出る住民（地域）が多くなる



二本松市の財政状況について

県内13市	財政力指数
郡山市	0.80
いわき市	0.77
福島市	0.76
相馬市	0.66
南相馬市	0.66
本宮市	0.63
会津若松市	0.62
白河市	0.60
須賀川市	0.59
二本松市	0.44
伊達市	0.40
喜多方市	0.37
田村市	0.33

- 平成29年度財政力指数 **0.44**
＝基準財政収入額6,138,634千円
／基準財政需要額13,805,181千円
- 県内**13**市の中では**10**番目

二本松市の財政状況について

経常一般財源

(千円)

市民税	2,707,696
固定資産税	2,946,805
軽自動車税	197,932
たばこ税	365,369
入湯税	30,425
市税計	6,248,227
地方譲与税・交付金計	1,631,636
普通交付税	8,406,205
その他収入	65,058
臨時財政対策債	858,280
計	17,209,406

経常的な歳出

うち一般財源充当額

人件費	3,940,309	3,744,187
扶助費	3,039,763	1,167,125
公債費	2,972,862	2,891,638
物件費	3,127,331	2,718,392
維持補修費	452,053	390,549
補助費等	3,741,479	2,956,925
繰出金	2,338,747	1,992,765
	19,612,544	15,861,581

経常収支比率

92.2%

充当後一般財源残額
(政策的経費にあてられる財
源)

1,347,825千円

二本松市の財政状況について

普通交付税は合併算定替えによりさらに縮減される。

- H30は▲ 4 億
- R1は▲ 6 億（H29比）
- R2は▲ 8 億（H29比）

つまり

政策的経費にあてられる予算は、令和2年度には単純計算で平成29年度比59.4%減の5億4,782万円となる。

そして、今後もさらに少なくなっていく

懸念

新しい政策を行うために予算をかけることが
難しくなっていく

+

現状のサービスの質を維持すること
できなくなってしまう・・・？

サービスの低下

負のスパイラル

財政状況
の悪化
(税収減少)



人口減少

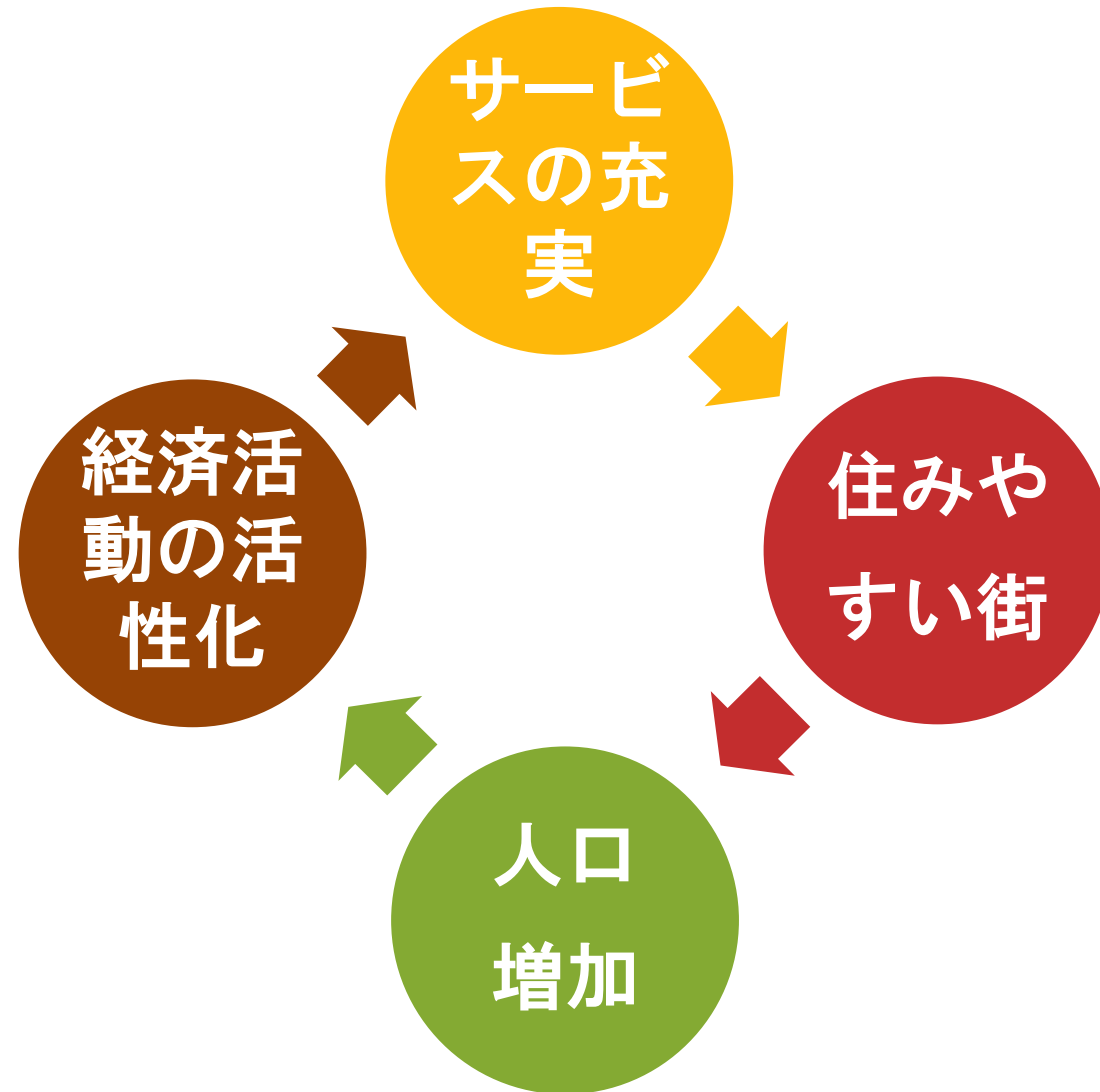
負のスパイラルを抜けだすためには

- 人口増加、財政状況の改善
- 公共サービス提供レベルの向上



必要不可欠

人口増加のために



公共サービスの充実のために

今（これから）自治体に求められるサービスを的確に把握し、提供すること。

- ・ 住民が求めているサービスを的確に提供することができれば、二本松市に住みたいと思う人を増やすことができるのではないか？

0 から 1 を生み出せる発想力があり、課題解決能力をもった職員が必要

- ・ 限られた予算の中で、現状のサービスを維持・向上していくには、今までと違うアプローチが必要。
- ・ 既成概念にとらわれず、新たな手法を提案できる人材

そこで今回提案するのは・・・

◎ インターンシップの採用



◎ 職員採用試験でのグループワークの導入



提案①

◎ インターンシップの採用

インターンシップとは

意味

- ・ 特定の職の経験を積むために、企業や組織において労働に従事している期間のこと

実際

- ・ 実際には、雇用側が職業体験の場と機会を提供し、学生が参加することができる制度のことを指す

対象

- ・ 民間企業だけではなく、国や地方公共団体等、公務員のインターンシップの事例も存在する

インターンシップの例①（福島県庁）

内容

- ・ 実際の業務の経験（受け入れ場所：テクノアカデミー、児童相談所、建設事務所等）

対象者

- ・ 大学（3年生以上）、高等専門学校（4年生以上または専門科）、専修学校の学生

期間

- ・ 長期（2週間程度）
- ・ 短期（3日程度）

インターンシップの例②（経済産業省）

内容

- ・ 政策立案（テーマ：課題が山積する日本経済の舵取りをどのようにしていくのか）

対象者

- ・ 日本国籍を有する短期大学、高等専門学校、大学、大学院の学生

期間

- ・ 長期（1週間）
- ・ 短期（1日）

今回提案するインターンシップ（概要）

内容

- ・ 政策立案（テーマ：こんなサービスがあったら二本松に住みたい）
- ・ 職務体験

対象者

- ・ 大学（3年生以上）、大学院の学生

期間

- ・ 5日程度（8月～9月）

今回提案するインターンシップ（概要）

募集 人数

- ・ 20名程度

応募 方法

- ・ 大学、大学院のキャリアセンターを通して応募
- ・ エントリーシートの提出必要

その 他

- ・ 福島大学等の地元の大学や、二本松市と合う理念を持った大学・大学院を優先する

今回提案するインターンシップ（日程）

導入

- ・ 講義（二本松市の概要について）・・・0.5日
- ・ 市内見学・・・0.5日

職務体験

- ・ 市民課等・・・0.5日
- ・ 観光課、土木課等・・・0.5日

政策立案

- ・ グループワーク（4人×5グループ）・・・2.0日

今回提案するインターンシップ（日程）

成果発表

- ・ プレゼンテーション・・・0.5日

講評

- ・ 市幹部職員による講評・・・0.5日

今回提案するインターンシップ（補足）

宿泊 場所

- ・ 合併前 4 市町に 1 泊ずつ

必要 経費

- ・ 480,000円（20人×4泊×6,000円）

フィード バック

- ・ インターンシップ後に意見書を提出してもらう
- ・ 意見書をもとにより良い制度となる様に改善する

インターンシップで得られる効果

政策に関する効果

- ① これからの時代に求められることを「直接」知ることができる
- ② （職員とは違う）新しい視点での政策立案ができる

これから社会に出ていく学生が、なにを求めているのか知ること
とで、定住者（人口）を増やすための政策のヒントを効率的に
得られるのではないか

インターンシップで得られる効果

参加者に関する効果

- ③自治体への興味が大きくなる
- ④職員採用試験の応募者が増加し、選考が活性化される
- ⑤採用後のギャップを小さくできる

提案②

◎ 職員採用試験でのグループワークの導入

グループワークとは…

- (選考に臨む者たちで)グループをつくり、与えられたテーマについて議論したり、成果物を作って発表したりする選考形式。
- ワーク中における活躍度や性格、周囲の人との関係構築などを選考のポイントとしている。
- 採用側が求める人材像により様々な種類がある。



作業型



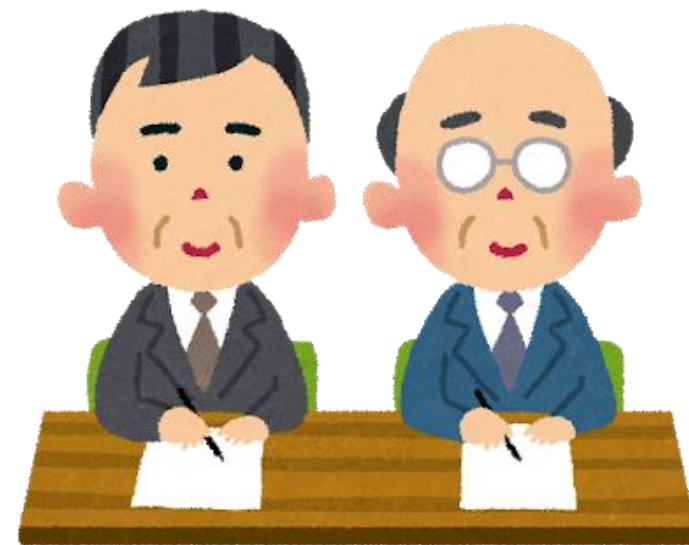
ビジネス型



プレゼン型



グループワークでここを見る





採用試験におけるグループワーク導入案

【目的】これからの二本松市職員として必要な資質を持った人物を採用する

【対象者】二本松市職員採用候補者試験応募者（一般事務）

【選考過程】1次試験通過者に対し2次試験として8名を1グループとして実施

※現在の面接は最終試験として実施

※2次試験の案内にディスカッション内容を事前提示する

【選考内容】市が現在直面している課題に対してその解決方法をディスカッションする

例）本町にある空き店舗をどう活用すれば商店街を活性化させることができるか等

【選考時間】60分

【必要経費】なし

グループワーク導入により期待できる効果

直接的

- ・ 他者との関わりの中で対象者の資質をみることができる
- ・ 二本松市のことを本気で考えてもらうことができる
- ・ 政策についてのヒントを得ることができる

間接的

- ・ 職員の総合的な資質向上の期待できる
- ・ 職場の活性化につながる

まとめ

時代の変化に対応できる職員の採用

職員全体の総合的な質の向上

「いまの」そして「これから」の
住民のニーズに対応可能

よりよい二本松市へと発展



ご清聴
ありがとうございました

